

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

令和 5 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 5 年度農作物病害虫発生予報第 1 6 号を発表したので送付します。

---

令和 5 年度農作物病害虫発生予報第 1 6 号

令和 6 年 3 月 2 5 日  
徳 島 県

## I. 果樹 カンキツ

そうか病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3 月第 3 半月の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が 13.3%、発病度が 0.0 と、平年(19.0%、0.1)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が 3 月 21 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病原菌は病枝や病葉で越冬し、翌年の新梢発生時から 6 月頃まで新葉に雨滴によって伝染する。
- (2) 薬剤防除適期は 4 月上中旬の発芽直後(芽の長さ 1cm 程度)と 5 月中下旬の落花期である。
- (3) 春葉での感染が多いと果実の発病を抑えることは難しい。

かいよう病(スダチ)

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3 月第 3 半月のスダチでの巡回調査では、旧葉での発生圃場率が 100%、発病度が 5.3 と、平年(96.3%、6.1)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が 3 月 21 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病原細菌は水滴によって運ばれ、気孔、傷口から組織内に侵入する。風速 6～8 m 以上の強風を伴う場合、侵入が助長されるので、防風林や防風ネット等を設置し、防風対策を行う。
- (2) 前年の夏秋梢に発生した病斑が特に翌春の伝染源となるため、被害枝はせん定の際に、徹底して除去する。
- (3) 旧葉に発病が認められる場合には、発芽前の 3 月下旬に薬剤を散布する。

## ミカンハダニ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が60.0%と、平年(73.3%)並の発生であるが、寄生葉率は5.3%と、平年(10.8%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 12月に薬剤防除を実施していない圃場では、3月中にマシン油乳剤を散布する。12月または3月に丁寧に散布すれば、初夏まで抑制効果がある。
- (2) マシン油乳剤とボルドー液は14日以上間隔をあげ、散布する。

## ナシ

### 黒星病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.5%、芽基部発病芽率が0.0%)。
- (2) 令和5年9月第3半旬及び10月第3半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。
- (3) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し、防除に努める。

## II. 野菜

### 冬春トマト

#### 疫病

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が16.7%、発病度が1.2)。
- (2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないよう十分に換気を行う。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。
- (4) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。

## 灰色かび病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が9.4%、発病葉率が0.5%、発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 葉かび病

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病度が0.5と、平年(1.0%、0.0)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3) 病斑は主に葉裏に形成されるので、薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## コナジラミ類(主にタバココナジラミ)(令和5年11月1日付けで注意報発令中)

### 1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が83.3%と、平年(58.0%)に比べてやや高く、寄生葉率は23.0%と、平年(5.5%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春ナス

### 灰色かび病

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

## 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%、発病果率が0.7%と、平年(12.2%、0.3%)に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

(1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## うどんこ病

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が10.2%、発病葉率が0.6%)。

(2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## すすかび病

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が83.3%、発病葉率が12.3%と、平年(54.0%、9.1%)に比べてやや高い。

(2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 気温が25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.6%、寄生葉率が0.2%)。

(2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は

少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アザミウマ類

### 1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

- (1)3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が28.8%、寄生葉率が1.7%)。なお、被害果も認めていない(平年同時期は被害果率が1.0%)。
- (2)高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## コナジラミ類(主にタバココナジラミ)(令和5年11月1日付けで注意報発令中)

### 1)予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

### 2)予報の根拠

- (1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%、寄生葉率が32.7%と、平年(44.8%、7.8%)に比べて高い。
- (2)高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## ハダニ類

### 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

- (1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%と、平年(15.7%)並の発生であるが、寄生葉率は2.8%と、平年(0.9%)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春キュウリ

### べと病

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が37.5%と、平年(53.1%)に比べてやや低く、発病葉率は0.8%と、平年(9.9%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (4) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。

### うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より多い)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(59.7%)並の発生であるが、発病葉率は1.5%と、平年(6.0%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

### 褐斑病

#### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が55.3%、発病葉率が7.9%)。
- (2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

### 灰色かび病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

## 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.9%、発病果率が0.3%)。

(2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

(1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、寄生葉率が0.8%と、平年(8.9%、0.4%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、葉液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アザミウマ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が37.5%、寄生葉率が2.5%と、平年(36.3%、4.4%)並の発生である。なお、被害果は認めていない(平年同時期は発生圃場率が6.9%、被害果率が0.3%)。

(2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に葉液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## コナジラミ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(12.5%)に比べて高いが、寄生葉率は1.4%と、平年(0.8%)に比べてやや高い。

(2) 高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春ホウレンソウ

### べと病

#### 1) 予報の内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が60.0%と、平年(19.9%)に比べて高いが、発病度は1.5と、平年(1.8)並の発生である。
- (2)高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)徳島県では、本病原菌レース1～13まで確認されているため、品種はレース1～13に抵抗性があるものを利用する。
- (2)抵抗性品種でも突然発生することがあるので、発病好適時の栽培では、薬剤の予防散布を行う。
- (3)平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるよう丁寧に散布する。
- (4)罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (5)葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

## アブラムシ類

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、1株当たり寄生虫数が0.0頭と、平年(41.4%、0.1頭)に比べてやや低い。
- (2)高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春イチゴ

### 灰色かび病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.1%、発病果率が0.2%と、平年(5.7%、0.2%)並の発生である。
- (2)高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。



(2)発病果は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### うどんこ病

##### 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

##### 2)予報の根拠

(1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.1%、発病葉率が0.2%と、平年(5.0%、0.2%)並の発生である。なお、果実では発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が4.3%、発病果率が0.3%)。

(2)高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3)防除上注意すべき事項

(1)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(2)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### アブラムシ類

##### 1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

##### 2)予報の根拠

(1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が21.4%、寄生株率が2.0%と、平年(20.0%、3.1%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### ハダニ類

##### 1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

##### 2)予報の根拠

(1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が21.4%、寄生葉率が3.2%と、平年(60.0%、11.8%)に比べて低い。

(2)高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### アザミウマ類

##### 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

##### 2)予報の根拠

(1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が35.7%、寄生花率が3.8%と、平年(41.8%、3.3%)並の

発生である。

(2)高松地方気象台が3月21日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

### Ⅲ.その他

1)水稻の育苗や甘藷の圃場準備等が始まり、農薬を使用する機会が多くなる時期である。農薬による危害、事故等を防ぐためにも、使用時には周辺環境に配慮した上で取り扱うとともに、使用残農薬、廃液等は適切に処分する。また、水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

2)薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

#### 発生量の表示

**発生程度：甚>多>中>少>無**

**発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない**

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所  
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。